

# バルセロナ



No 1 (2014年7月31日)  
バルセロナ日本人学校  
H26年度派遣  
平尾和幸

## はじめに

皆さんこんにちは バルセロナ日本人学校教頭の平尾和幸(鳥取市立中ノ郷中学校在籍)です。  
3月末に赴任し、ようやく夏休みを迎えたところです。これから、何回かの発行でバルセロナ日本人学校、学校のあるバルセロナ市(カタルーニャ州)及びスペインのこについて紹介したいと思います。

## バルセロナ日本人学校への赴任にあたって

### (1) バルセロナと聞いて

私にとってバルセロナという言葉は、オリンピックの開催地(マラソンで鳥取県出身の森下広一選手や山下佐知子選手が活躍)であったということしか脳裏にはありませんでした。欧州以外の赴任地を想定していましたので、少し戸惑った感じでした。赴任地が決まってからわかったことですが、スペインについては、派遣期間が延長されず2年間ということでした。これにはいろいろと経緯があるようですが、仮に3年目を迎えたなら、スペインの税金が課せられ、在勤手当の大半がなくなってしまうという事態が生じるためのようです。



写真1 バルセロナオリンピック陸上競技場

### (2) ビザ(査証)の取得

もう一つ赴任に当たって当惑したことの一つに、ビザ(査証)の発給がかなり遅いということです。管理職は3月14日辞令交付、翌日成田もしくは羽田で出国ということでした。私及びスペインへの派遣教員に関しては文部科学省、外務省(大使館)等をはじめ相当早めに準備をしていただきましたが、結局私に関しては3月27日にスペイン大使館でビザを受け取り、翌日の28日に文部科学省で一人だけの辞令交付が行われ、その後出発ということになりました。他の管理職より2週間遅れの出国となりました。ただ、昨年度赴任の校長先生については4月の赴任ということだったので、少しはましかということもいえます。スペインの事務手続きのことはわかりかねますが、他国のビザ発給にかかる時間と比べて、著しく時間を要するのは派遣教員のみならずスペイン派遣者の頭を悩ます問題の一つでもあります。

※一般の観光者にはビザ問題はありません。

## バルセロナ日本人学校

### (1) 校章

右図が校章です。日本のサクラの花びらの形が外枠です。その中にバルセロナのBの中枠があり、カタルーニャ州の州旗\*の黄色と赤のストライプがあります。また、その中にJAPONES(日本、ハボネス)のJの白字が見えます。

※ FC バルセロナ(通称バルサ)のアウェーのユニフォームは、この州旗をもとにデザインしたものです。



図 バルセロナ日本人学校校章

## (2) 設立

本校は、昭和 61(1986)年 4 月 1 日開校し、平成 4 (1992)年 3 月末バルセロナ市の北部のサン・クガット市に新校舎を設け、現在に至ります。

学校運営の主体は「バルセロナ日本人学校運営委員会」ですが、バルセロナに拠点を置く日本企業の組織「バルセロナ水曜会」に資金面でのバックアップをしてもらっています。



写真2 バルセロナ日本人学校

## (3) 小学部・中学部・幼稚部・教職員・補習授業校

今年度は小学部・中学部各1クラスで、全校児童生徒 53 名(4月時点小学部 38 人、中学部 15 人) でスタートしました。本来なら 9 学年 9 クラスですが、残念なことに小学部 1 年の入学者はありませんでした。小・中学部は、かつては 150 人を超える在籍数でしたが、日本企業のスペインでの経営形態の変化や赴任者子弟のインターナショナルスクールへの進学が増え、近年は在籍数が少なくなっています。

幼稚部(日本人学校に併設)は平成 23(2011)年度に開園し、今年度は 6 人でスタートしました。

今年度の教職員は、管理職を含む派遣教員 10 人、現地採用教職員 3 人、現地採用講師 1 人、非常勤講師 2 人(英語・スペイン語会話担当)、事務長 1 人(園長兼務)、事務 1 人、用務担当 1 人、幼稚部教職員 2 人、保安担当(警備員) 1 人です。

私は鳥取県教育委員会から初めての派遣教員でしたが、実は鳥取県出身の教職員はすでにおられて、鳥取県出身としては 2 番目の赴任ということになりました。

日本人学校の校舎で補習授業校(経営母体は違い、日本語教育を中心とした教育を実施。運動会開催等のつながりがあります)が週 1 回土曜日に授業を行います。今年度の園児・児童・生徒総数は 105 人で、在籍総数は日本人学校を大きく上回り、逆転が起きております。これは国際結婚による日本人の進出の多さを物語っています。



写真3 補習校と合同で行った運動会(5月31日)

## (4) 教育課程

日本の学校とほぼ同じ教育課程(総合的な学習の時間やクラブ活動もあります)です。それに加えてどの学年も英語会話とスペイン語会話の授業が火曜日と木曜日にあります。先生は現地採用の方です。この時間等を確保するため、水曜日以外は 7 時限授業(水曜日は 6 時限)となっています。中学部については、日本の部活動に相当する活動はありません。

日本国内の学校で使用している教材・教具はほぼそろっていますが、理科の観察や社会科・生活科の見学等は日本通りというのは難しく、バルセロナの利点を活用してのオリジナルの授業となり、各教師の腕の見せ所というところではあります。なお、教材・教具については、海外子女教育振興財団を通して購入したり、直接日本の業者とやり取りをして購入することになっていますが、送料や関税等でかなりの割高になります。もちろんこちらで調達できるものについてはこちらでの購入ということになりますが、日本のように物が十分にあり、しかも調達しやすければいいのですが、理科の薬品や文房具をはじめ、なかなか使い勝手のよいものを安く手に入れるのが難しい状況です。



写真4 小学部の授業の様子

## (5) 通学・通勤

園児・児童・生徒の多くは、バルセロナ市内から専用の通学バス2台で通学します。少数ですが自家用車での通学もあります。

通学バスの運営については、学校運営委員会及び保護者組織による通学バス委員会によって行われますが、危機管理・安全面については毎日のことですので、教職員も含めて連携しながら安全確保の徹底を図っています。また、写真のように緊急時のバス通学の登下校における訓練を総領事館、サン・クガット市警察の協力を得て行っています。

バス会社にも運転手、添乗員が常に固定した職員での乗務となるよう委託し、GPSで常にどこを走行中かを把握できるようにもしています。

教職員は、ほぼ全員が車による通勤です。派遣教員はサン・クガット市内に住んでいますので、15分程度の通勤時間となります。



写真5 緊急時の通学バス乗車訓練

## カタルーニャ州について(バルセロナ水曜会生活情報委員会資料より抜粋)

- ・面積: 32、090 km<sup>2</sup> (スペインの6.3%、四国の約2倍弱)
- ・人口: 757万0、908人(2012年1月)
- ・在留邦人: 約2、500人(2012年)(日系企業: 約150社)
- ・年間邦人観光客: 約38万人(2012年: スペイン全体の推定値)
- ・言語: スペイン語、カタルーニャ語、アラン語(州北西部バル・ダラン地方で使用)

※ カタルーニャ語は、近代以降のスペイン絶対王政下やスペイン内戦後のフランコによる独裁体制下において、77年まで公式での使用及び教育は禁止されていました。現在では、大部分のカタルーニャ人は、スペイン語とカタルーニャ語の両方に通じており、道路標識や商店の看板、テレビ放送など日常の様々な側面にカタルーニャ語が浸透しています。

また、一般に州都バルセロナ市よりも地方の方がよりカタルーニャ語の使用率が高いです。

## バルセロナ市について(バルセロナ水曜会生活情報委員会資料より抜粋)

### (1) 基本データ

- ・面積: 101.0 km<sup>2</sup>(カタルーニャ州の約0.3%、埼玉県川越市とほぼ同じ)
- ・人口: 162万0、943人(2012年1月、カタルーニャ州人口の約21%、スペイン人口の約3.4%) 首都マドリッドに続くスペイン第2の都市。
- ・外国人人口(住民登録による): 24万5、999人(2007年1月、市の人口の約15%)
- ・在留邦人(バルセロナ県): 約2、300人(2012年、日系企業約140社)

### (2) 歴史

#### ① 紀元前1世紀

ローマ人の小さな植民都市、「バルキーノ」として生まれた。

#### ② 4世紀から14世紀にかけて

バルセロナ市の基礎が築かれ、封建化が進む中、地中海貿易が盛んになり、政治、宗教、商業の中心地へと発展。14世紀にはサン・ジャウマ広場周辺が政治の中心となり、サンタ・マリア・デル・マル教会周辺が貿易業者や職人の街として発展。

#### ③ 17世紀

繊維業の隆盛及び中南米植民地との貿易により、バルセロナの経済は大きく発展。

#### ④ 19世紀末

繊維業を中心に経済が発展し、産業革命を遂げ、スペインで随一の経済先進地域に変貌を遂げた。1888年、欧州ではパリ、ロンドン及びジュネーブに次ぐ4番目の開催地となる万国博覧会が現在のシウダデジャ公園周辺にて開催された(1929年、2回目の万国博覧会が開催)。

#### ⑤ スペイン内戦(1936年～1939年)終了後

カタルーニャ地域は自治権を奪われる。

